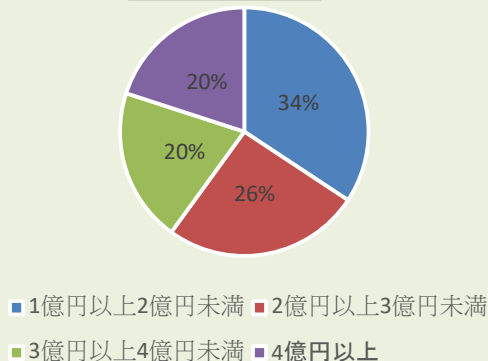


建設キャリアアップシステム モデル工事現場報告書 ①

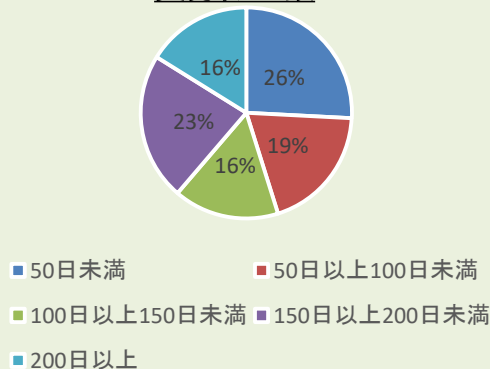
2019年4月より本格運用が開始された「建設キャリアアップシステム」について、導入に伴う地域建設業における課題や懸案事項、メリット等を明らかにするため、各都道府県建設業協会の会員企業の現場から「モデル工事現場」を選定し、アンケートを実施しました。下請企業の事業者登録数や課題等について報告します。

- ・現場数 : 36現場(発注者:国の直轄工事15、地方公共団体18、民間発注工事3)
- ・調査時期 : 令和3年8月末時点

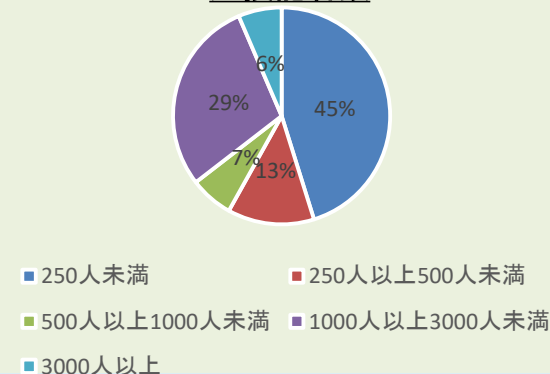
工事請負金額



実労働日数



延技能者数

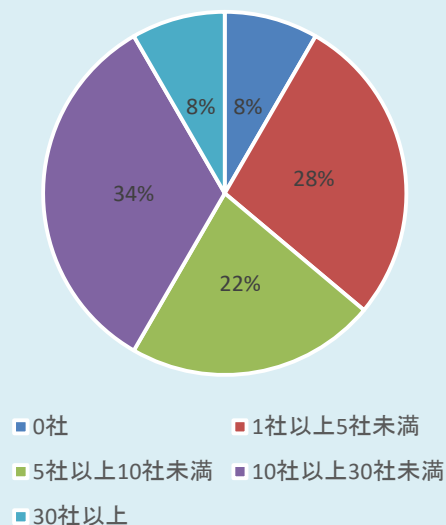


1. 下請企業の登録事業者について

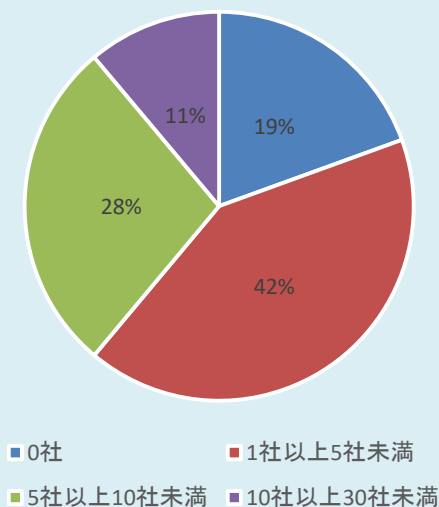
下請企業者数は、10社未満が58%を占めるが、下請企業の登録事業者数は1社以上5社未満が42%となり、昨年の調査(下請企業の登録事業者数0社が40%)と比較すると、国交省CCUS活用推奨モデル工事の影響により、事業者登録に進捗がみられた。

下請企業の登録事業者率は、43%が国交省CCUS活用推奨モデル工事の最低基準70%をクリアしており、その効果が一定程度見られた。

1-1. 当該現場における下請企業者数

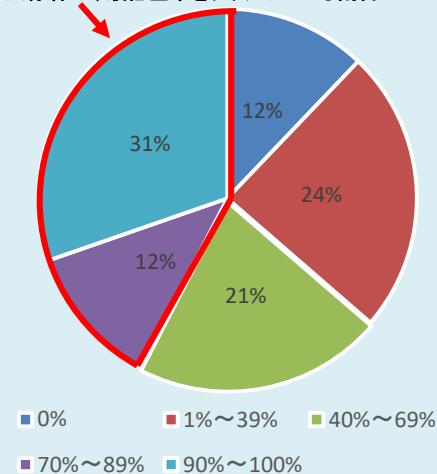


1-2. 下請企業の登録事業者数



1-3. 下請企業の登録事業者率(1-2/1-1)

※国交省CCUS活用推奨モデル工事:目標基準90%、最低基準70%
※赤枠は、最低基準をクリアしている割合



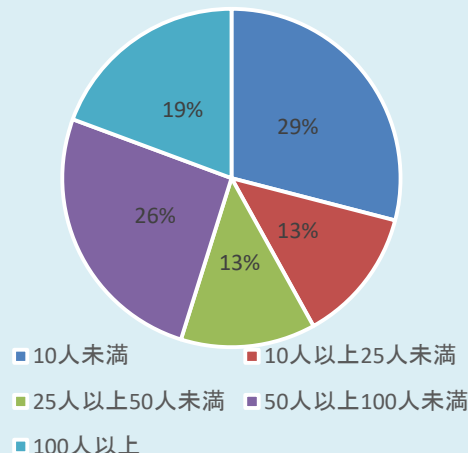
建設キャリアアップシステム モデル工事現場報告書 ②

2. 技能者登録者数について

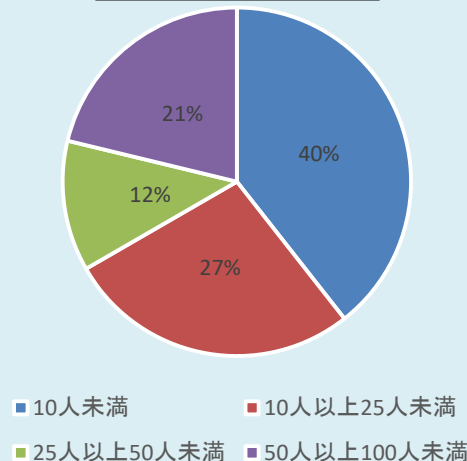
技能者数は、25人未満の現場が42%であるが、登録技能者数は25人未満が67%であり、昨年の調査（登録技能者数25人未満が77%）と比較すると、国交省CCUS活用推奨モデル工事の効果が表れている。

なお、登録技能者率は、52%が国交省CCUS活用推奨モデル工事の最低基準60%をクリアしている。

2-1. 当該現場における技能者数

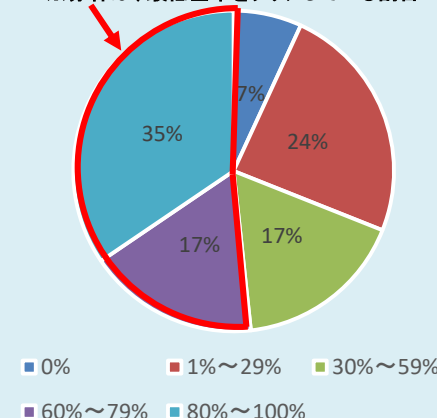


2-2. 登録技能者数



2-3. 登録技能者率(2-2/2-1)

※国交省CCUS活用推奨モデル工事:目標基準80%、最低基準60%
※赤枠は、最低基準をクリアしている割合

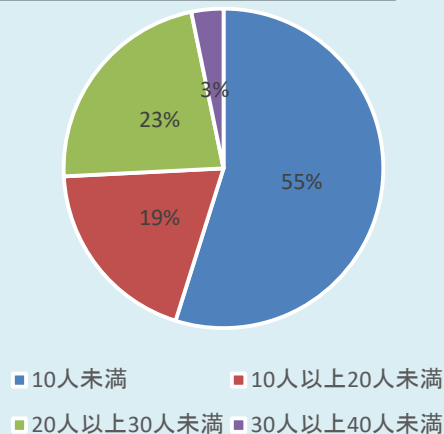


3. 就労履歴蓄積について

登録技能者のカードタッチは10人未満が55%であり、2021年6月の技能者毎の平均就業履歴数（就業履歴1~10回が49.8%）と概ね同じ傾向となった。

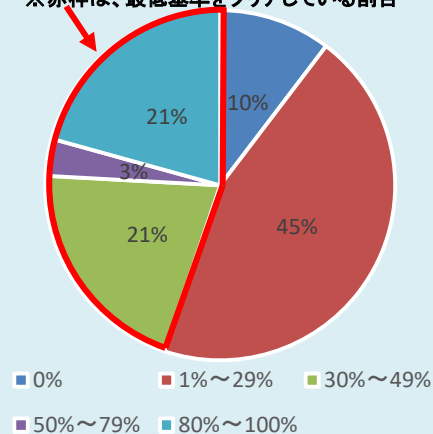
なお、就労履歴蓄積率は45%が、国交省CCUS活用推奨モデル工事の最低基準30%をクリアしている。

3-1. カードリーダーへタッチ等をして現場へ入場した技能者数

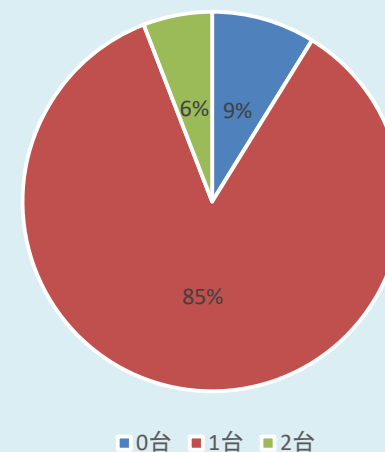


3-2. 就労履歴蓄積率(3-1/2-1)

※国交省CCUS活用推奨モデル工事:目標基準50%、最低基準30%
※赤枠は、最低基準をクリアしている割合



(参考) カードリーダーの設置数



4.書類作成におけるCCUSの活用や情報漏洩について

国交省CCUS活用推奨モデル工事が4割強を占めていることから、書類作成にCCUSを一定程度活用している現場がみられた。
 なお、企業・技能者の情報が元請負等で閲覧できることで企業情報の漏洩等の問題は発生していない。

4-1. CCUSの活用状況(使用有無)

- ① 社会保険加入状況の確認
 - ・使用している 7件(20%)
 - ・使用していない 28件(80%)
- ② 有資格状況の確認
 - ・使用している 5件(14%)
 - ・使用していない 30件(86%)
- ③ 施工体制台帳の使用
 - ・一部使用している 2件(5%)
 - ・使用していない 33件(95%)

4-2. 「4.1」においてCCUSを使用していない理由

- ・下請業者と契約する際、安全書類等を書面で受け取っているため。
- ・発注者指定の様式で提出を求められることがあるため。
- ・閲覧の仕方がわからないため。
 →下請けにおいて、グリーンサイトにて運用している会社が多いので連携して書類が出来るようにした方が良い。

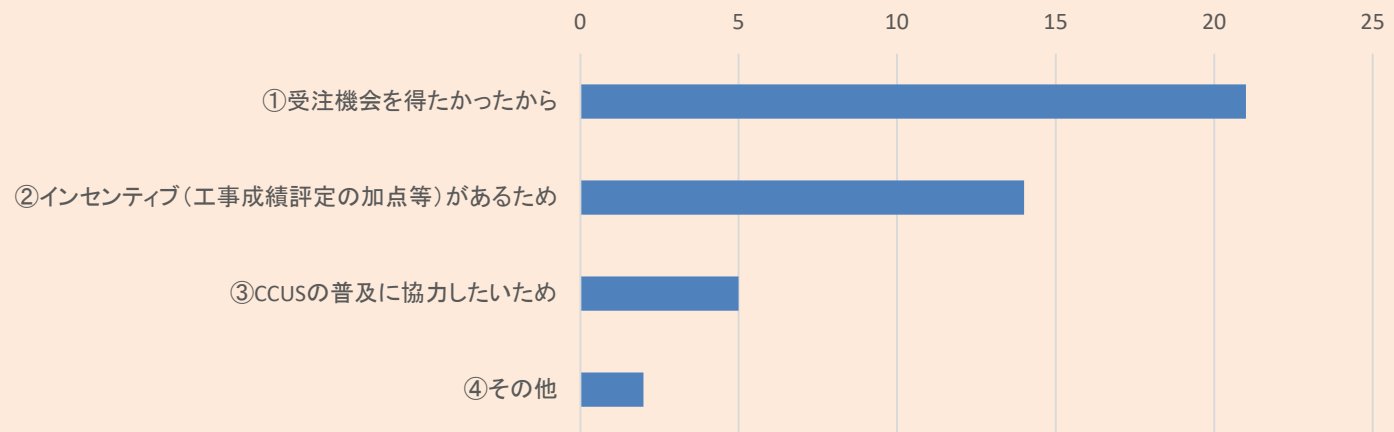
4-3. 企業情報漏洩の課題について企業、技能者の情報が元請等で閲覧できることによる問題発生有無

- ・問題なし 33件(100%)
- ・問題あり 0件(0%)

5. CCUS工事の入札に参加した理由について

受注機会を得たかったからという回答が21件と最も多かったが、インセンティブ(工事成績評価の加点等)があるためという回答が14件、CCUSの普及に協力したいためという回答が5件あり、インセンティブによるメリット等の効果が伺えた。

5-1. 工事成績評価や総合評価での加点等を行うCCUS工事の入札に参加した理由(複数回答可)



(その他)

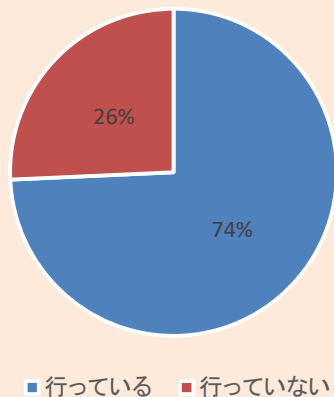
- ・当該プロジェクトの工事受注を作りたかったため。等

建設キャリアアップシステム モデル工事現場報告書 ④

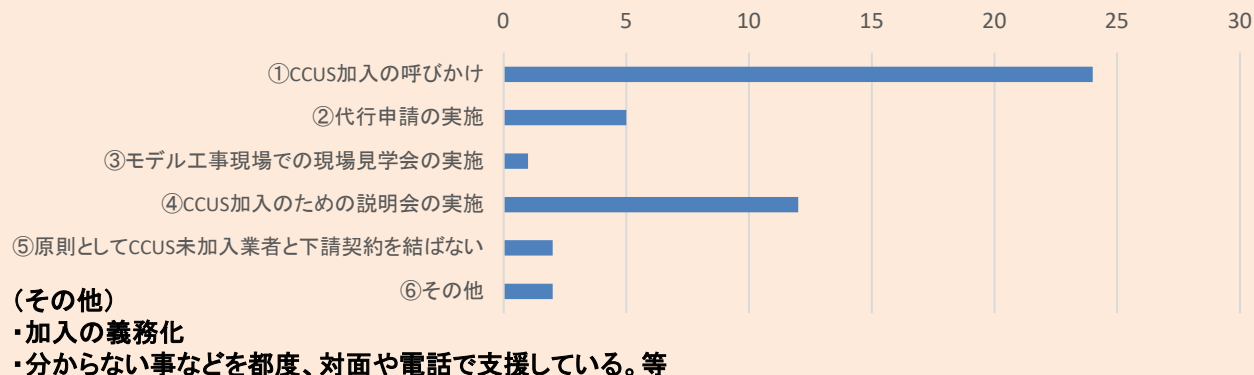
6. 下請企業に対してのCCUS加入対策の実施について

74%が下請企業に対して、CCUSの加入対策を実施しており、実施している加入対策または有効だと思われる加入対策は、CCUS加入のための呼びかけと説明会の実施が多かった。なお、一部には、原則としてCCUS未加入業者と下請契約を結ばない、という回答もあった。

6-1. 下請企業に対してのCCUS加入対策の実施有無



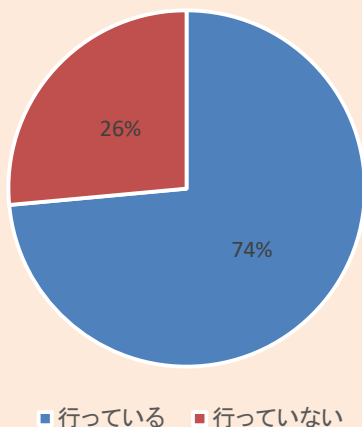
6-2. 「6-1.で実施している」と回答した者における、下請企業加入対策、または、有効だと思われる加入対策(複数回答可)



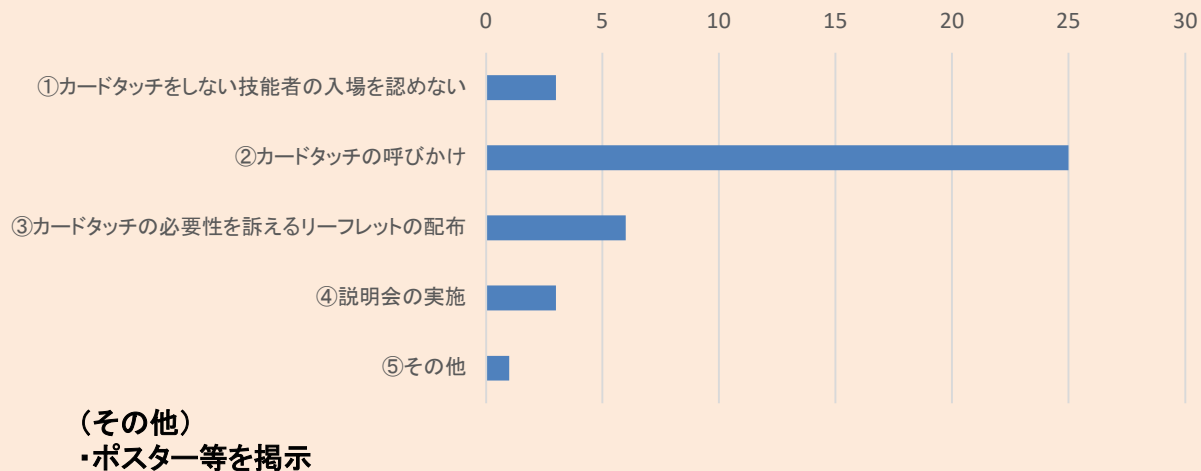
7. 技能者に対してのカードタッチ(CCUS就業履歴の蓄積)の促進について

74%が技能者に対して、カードタッチ(CCUS就業履歴の蓄積)の促進に関する取組を実施しており、実施しているカードタッチ促進対策または有効だと思われる対策は、カードタッチの呼びかけが最も多かった。なお、一部には、カードタッチをしない技能者の入場を認めない、という回答もあった。

7-1. 技能者に対してのカードタッチ促進対策の実施有無

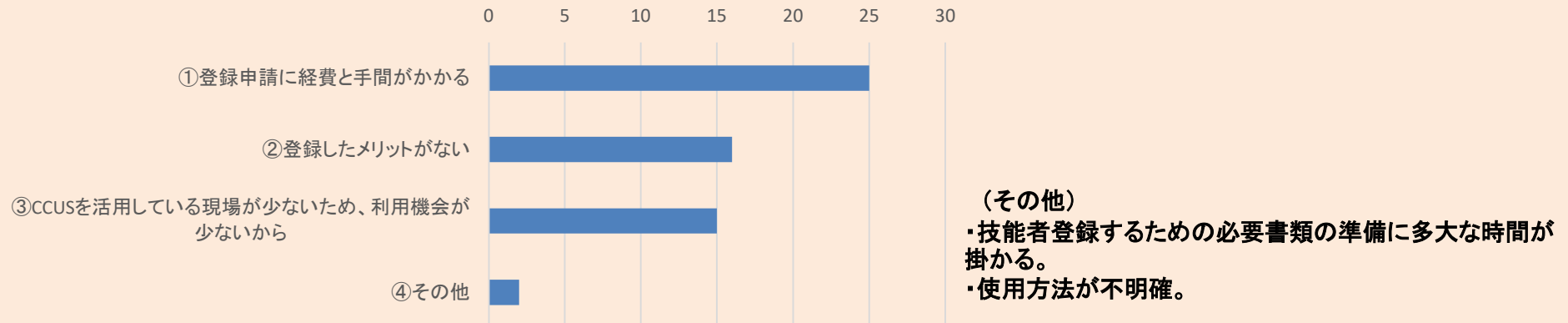


7-2. 「7-1.で実施している」と回答した者における、カードタッチ促進対策、または、有効だと思われる対策(複数回答可)



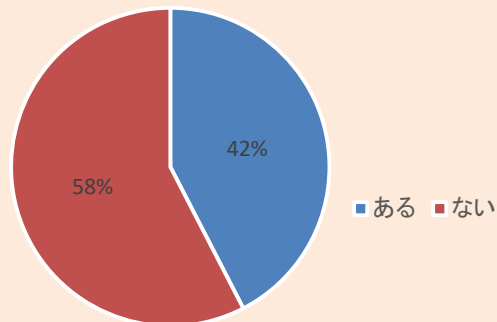
8. 技能者登録が進まないと考えられる理由について(複数回答可)

技能者登録が進まないと考えられる理由として、書類申請に手間と時間がかかる、登録したメリットがないとの回答が多かった。



9. CCUSのメリットについて

CCUSを実際に活用したモデル工事現場においては、42%がメリットがあると回答し、58%がメリットがないと回答した。昨年の調査と比較すると、メリットがあるとの回答が16ポイント増加し、ないとした回答は16ポイント減少した。

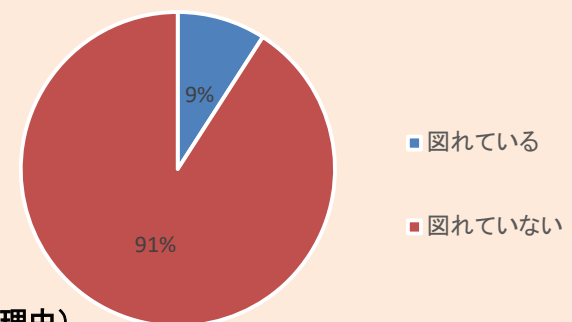


(あると回答した理由)

- ・作業員名簿や資格の有無をいつでもシステムから確認でき、帳票としても出力出来るため。
- ・発注者へのアピールポイントとなり、また、工事成績評定点の加点がされるため。
- ・工事加点対象であるため。
- ・書類の簡素化等に繋がるため。等

10. CCUS活用による業務の効率化について

CCUSの活用により書類作成や確認業務の効率化が図れているとの回答は9%にとどまり、91%が図れていないと回答した。



(図れていると回答した理由)

- ・最新の帳票が使用できるため。
- ・技能者の個人データ(資格・保険・緊急連絡先等)が瞬時に確認できるため。等

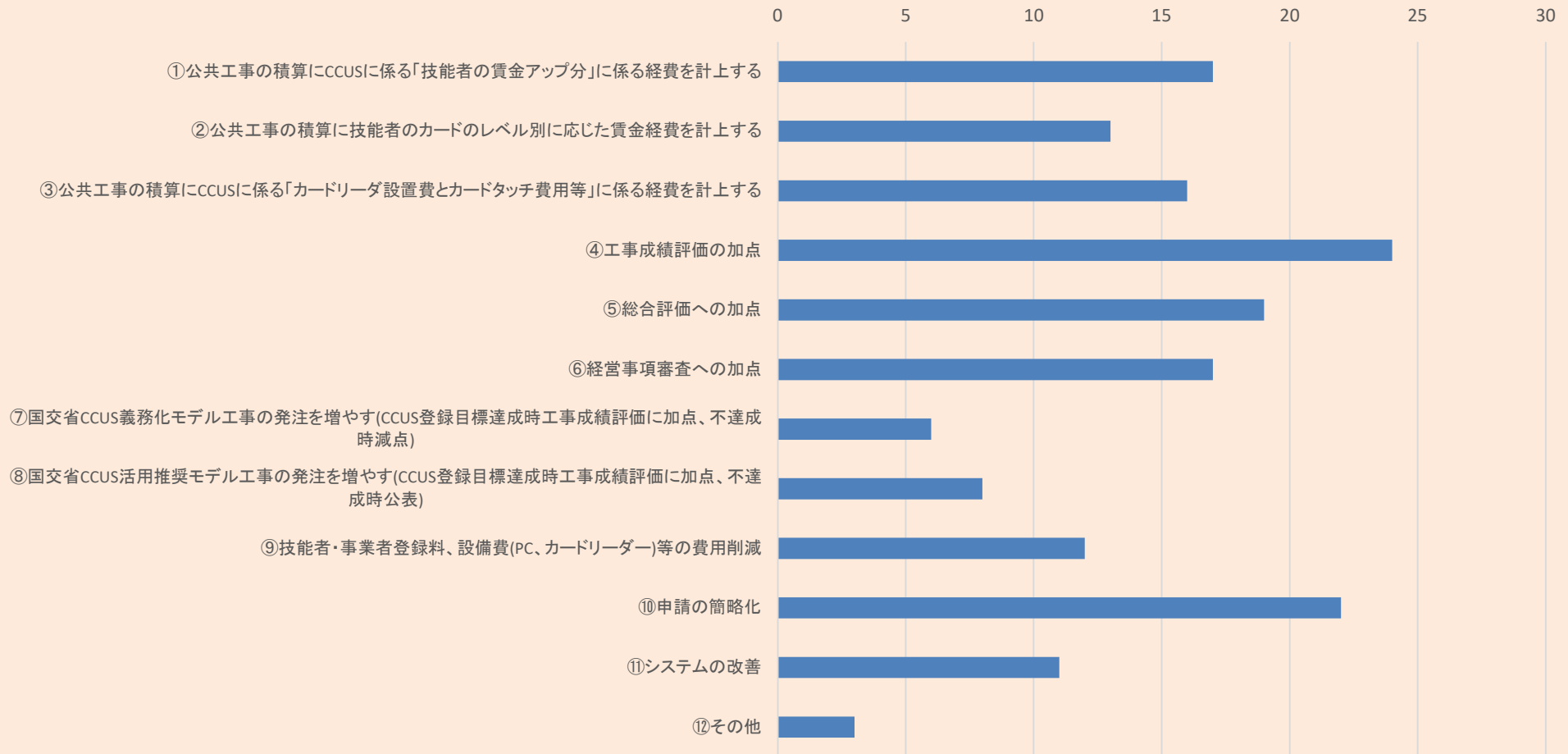
(図れていないと回答した理由)

- ・技能者が全てCCUSに加入していないので従来の安全書類での確認を行っているため。
- ・会社で決まった様式で統一しているため。等

建設キャリアアップシステム モデル工事現場報告書 ⑥

11. CCUS普及促進に有効だと思われる方策(複数回答可)

CCUS普及促進に有効だと思われる方策として、工事成績評価の加点や総合評価への加点、経営事項審査への加点といったインセンティブの付与についての回答や、申請の簡略化が有効だとする回答が最も多かった。また、公共工事の積算にCCUSに係る「技能者の賃金アップ分」に係る経費や技能者のカードのレベル別に応じた賃金経費を計上する、という回答も多く寄せられた。



(システム改善の内容)

- ・就労履歴の削除ができない点を改善していただきたい。
- ・分かりやすいユーザーフレンドリーなUIにしてほしい。
- ・安全書類作成方法を習得する機会を設けていただきたい。
- ・システム申請中のヘルプ機能(関係事項の想定Q&A)。
- ・システムの相談窓口の対応が遅い。等

(その他の内容)

- ・中小企業にCCUS運用のメリットが必要。
- ・ヘルプサポートの充実化。
- ・講習会等を多く実施してほしい。電話対応を実施してほしい。等

12-1. CCUS利用による効果

- ・作業員名簿や資格の有無をいつでもシステムから確認でき、帳票としても出力出来る。また、就業の履歴を確認できる(作業員の休日確保状況や、建退共請求日数の照合)。
- ・新技術等の積極的な取組が発注者に対してアピールになると思う。
- ・技能者のキャリア蓄積と建退共など電子化が進むこと。
- ・今後は、技能者のレベルアップに対し企業へのインセンティブを付加していただくと活用のメリットはあると思う。

12-2. CCUS利用の課題

- ・登録申請がやりやすければ下請企業も増えてくると思う。
- ・代行申請をするとなっても、内部資料等取り寄せが大変。
- ・カードリーダーを何度も通してしまっても、課金されてしまう。何度通しても1日1回の料金になるようにして頂きたい。
- ・下請企業への普及促進利用のメリットの明確化。
- ・事業者登録及び技能者登録の義務化。安全書類作成方法の指導。
- ・多能工への対応や技術者(代理人等)への対応。
- ・システム操作が慣れていないので説明会等を充実して頂きたい。また、電話サポート等による迅速なサポートをして頂きたい。
- ・申請の簡素化及び技能者カード配布までの時間短縮。
- ・下請企業において、グリーンサイトにて運用している会社が多いので連携して書類が出来るようにした方が良い。
- ・必要性は感じているが、モデル工事のペナルティーの条件が厳しい(経年的に徐々に上げていくべき)。

12-3. その他(CCUSを使っていて気付いた点等)

<登録時について>

- ・入力が複雑・マニュアルが多すぎて、また回答に数ヶ月かかる時もあり、再申請を繰り返すなど、改善すべきだと思われる。
- ・仕組みがよくわからないので、説明会の開催頻度を多くして欲しい。
- ・電話対応をしてほしい(メールで質問しても返信に1週間程度かかる)。

<システムの活用時について>

- ・出力できる様式の種類を増やしてほしい。(国交省提示様式等)。
- ・作業員名簿に出力される資格が主たる資格のみなので、載せたい資格を選択できると良い。
- ・技能者と所属事業者の関連付けが出来ていない下請企業が多くあった。マニュアルや登録画面の改善が必要ではないか。